

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 編集室
 〒450-0002 名古屋市中区
 中村区名駅二丁目45-19 室番
 桑山ビル8階 C000番
 電話 (583) 191000
 F A X (583) 191010
 http://www.cn-sho.or.jp
 info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

志有竟成

海部名誉会長 壽書展作品

ごあいさつ



名誉会長
海部俊樹

新年あけましておめでとうございます。昨年には内外ともに多事多端な年でした。「エボラ出血熱」とか「イスラム国」とか、これまでほとんど耳にしたことのない言葉が大きな危険を孕むニュースとして伝えられ、それらは今日に続いております。

身近なところでは御嶽山が噴火し、多くの犠牲者が出たことも記憶に新しいことです。広島島の土砂崩れ、長野の地震、更には記録的な大雪による被害等、平穏な日常が人的被害を伴って突然に破壊される不条理は、私たちが五十余年前伊勢湾台風で経験しました。

日本は地理的にも地勢的にも、大きな自然災害を受けやすい条件下にあります。それは一方では四季自然の変化に富む美しい国土を作っている条件でもあるのですが……。

世界レベルで考えれば、社会も自然も常に変化し動いており、一年間平穏無事などということは事実上ありえないと承知しておくべきでしょう。そんな中で、一度に三人の日本人がノーベル物

理学賞を受賞というニュースは格別のものでした。しかも三人ともが名古屋大学に縁のある方々であったということ、それまで何の知識もなかった私たちまで、なんとはなしに誇らしい気分になりました。地縁とは不思議なものであります。

さて、中部日本書道会は、ここ名古屋を中心に活動している団体であります。

たびたび確認されていることですが、特定の会派に偏せず、特定の全国展に従属せず、会員それぞれの自然な書歴と志向を尊重しつつ、全体として強調し、切磋琢磨を重ね、様々な事業を展開している稀有な書道会であります。

常に公益法人であることが意識されていることも、私、身内ながらも誇らしく思っているところでもあります。

書を学び、習得し、それを成熟させていくということは長い年月と普段の努力を要するものでしょう。

私、詳しくは存じませんが、技術的修練に加えて、題材としての詩文の勉強も必要でしょうし、文学的、美術的、歴史的知識、感性も磨き深めて

目次

- 1 海部俊樹名誉会長ごあいさつ
- 2 樽本樹邨名誉副会長 年頭所感
- 3 鬼頭翔雲理事長 年頭のごあいさつ
- 4 国内史跡探訪研修旅行
- 5 神戸・淡路島・鳴戸の旅
- 6 一宮支部創立六十周年記念を迎えて
- 7 第十八回公開講座開催
- 8 会員交流ボウリング大会を終えて
- 9 第二十六回書道教育研修会開催
- 10 第二十三回書展開催
- 11 樽本名誉副会長
- 12 第五十九回現代書道二十人展にご出品
- 13 改組新第一回日展入選者
- 14 第六十五回記念中日書道展
- 15 出品規程(抜粋)
- 16 日程表
- 17 二〇一四チャリティ愛の募金

樽本樹邨名誉副会長 年頭所感

(中日新聞一月一日号) より転載



の文化は長い歴史の中で培われた日本固有の伝統であり貴重な遺産です。その上毛筆を使用して文字を学ぶ事は美に対する深い感に届けました。

「日本固有の財産」

公益社団法人 中部日本書道会

副会長 樽本樹邨
 同時に小中高において書写教育の一層の充実と言語文化の豊かに触れるよう

情を育成することであり、幼な実践と、書道教員の採用拡充をお願いしてまいります。中学校の国語科たこの運動はこれからも続きます。漢字、かな、カタカナ 書写、特に毛筆書写教育の充

年頭所感

樹邨

いかなばならないでしょう。

それが作品を深めれば、その過程が作家自身を鍛え育てもする。そうであってほしいと私は思うのであります。

中部日本書道会の御発展と会員の皆様のご健康・ご多幸を祈って新年の挨拶いたします。

年頭のごあいさつ



理事長 鬼頭翔雲

あけましておめでとうございます。
会員の皆様には清々しい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

本会は昨年創立八十周年を迎え、記念誌「中部日本書道会八十年の歩み」を発行すると共に「いっしょに懸命 楽しいっ書！」と銘打ち、オアシス21「銀河の広場」において各種記念事業を開催致しました。その際には、会員の皆様の多大なご協力を頂きました。お陰さまで当初の予想をはるかに超える盛況の裡にイベントを終えることが出来ました。改めまして厚く御礼申し上げます。今後とも先人の築き上げた本会八十年の栄えある歴史に感謝すると共に、その重みを自覚しながら、公益社団法人としての使命と責任を果たしてまいりたいと考えております。

さて、二十六年本会事業もあと書きぞめ展（第六十五回記念中日書きぞめ展）を残すところとなりました。

本年度の本会事業では台風の影響を受け「史跡探訪研修旅行」と「書道教育研修講座」の二事業が延期になりましたが、日程を繰り延べてこれらの事業も終了することが出来き、今年度事業も無事計画通りに終える目途が立ちました。

それから来る二月十一日には「理事会」を開催

し、来年度の事業計画（案）、予算（案）を御審議賜ることになっております。当日の夕刻に行われます評議員会でその概要をご報告申し上げたいと存じます。

また来年の中日展に関しましては、既に準備に入っております。皆様には二月下旬には出品規程、出品票等書類一式をお届けする予定です。今回は「第六十五回記念中日書道展」として開催致すこととなり、二年連続の記念展です。この中部地区の多くの書道ファンにも本会の活動を広くお伝えするのはもちろん、魅力ある記念展にするべく企画等の検討をすすめております。

公益社団法人として社会的貢献をはたす中日書道会、また中部書壇の中枢を成す中日書道会、さらに公正公平で清新なイメージ等々、中日書道会には様々な役割やご期待が寄せられています。

本会に対するこれら今日的要請とともに、歴史と伝統の「重み」を十分肝に銘じ、会員の皆様のご期待に添えられるよう努めてまいります。事務局一同「前向き、全力！」を合言葉に今年も頑張つてまいります。

最後になりましたが、今後とも皆様の変わりませぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

行事案内

平成二十六年度 第二回理事会・第一回評議員会

平成二十七年二月十一日（水・祝）

場 所 名古屋観光ホテル

講演会 本会名誉顧問 西嶋慎一先生
書道文化研究家

「奇人・変人・書道三昧」

—— 思い出の書人達 ——

第六十五回記念中日書きぞめ展

平成二十七年三月二十一日（土・祝）午後一時～六時

二十二日（日）午前十時～午後六時

場 所 ナディアパーク二階アトリウム

授 賞 式

三月二十二日（日）午後二時 ナディアパーク三階デザインホール
理事長賞以上の生徒さんへ出席していただきます。

記念展事業

記念展事業として中日書道展の会場にも上位入賞作品（八十五点予定）を陳列します。
六月十七日（水）～二十一日（日） 愛知県美術館ギャラリー18階

第六十五回記念中日書道展運営委員会

平成二十七年四月四日（土）

場 所 キャッスルプラザ ※運営関係者のみの参加となります。

第六十五回記念中日書道展 記念行事（予定）

一、中日書道会 中堅作家による大作書展

二、中日書きぞめ展 上位作品の展示

三、展覧会会期中の席上揮毫

四、中日書道会の歴史等の上映

※最終決定は二月十一日（水・祝）の理事会となります。



白鶴美術館 中庭



白鶴美術館 玄関



大塚国際美術館 内部

- 白鶴美術館
- 北淡震災記念公園
- 大塚国際美術館

国内史跡探訪研修旅行 (神戸・淡路島・鳴戸の旅)

平成二十六年十一月二十三日(日)・二十四日(月・祝)

国内史跡探訪研修旅行 日程表

日数	月日 (曜日)	旅行内容
①	11月23日 (日曜日)	8時20分 JR名古屋駅西口広場に集合 8時40分 貸切バス3台分乗にて名古屋高速道路・東名阪自動車道・新名神高速道路・名神高速道路・京滋バイパス・中国自動車道・阪神高速道路を利用して神戸市内へ 9時20分 御在所サービスエリアにてトイレ休憩 10時45分 土山サービスエリアにてトイレ休憩 13時20分 「アスタくにつか1番館」3階の「神戸飯店」に到着 着後、「中華料理」での懇親昼食会 14時30分 一般道を利用して「白鶴美術館」へ 15時10分 「白鶴美術館」に到着 着後、奈良・平安時代の経巻・書、飛鳥～鎌倉時代の仏教工芸品、鎌倉～江戸時代の絵巻物・屏風・軸物など古寺に伝来した名品、商周時代の青銅器、唐・宋・明代の陶磁器、唐代の銀器・鏡など国宝・重要文化財も数多く含まれる世界有数のコレクションを参観 15時40分 第2神明・神戸淡路鳴門自動車道を利用して国生神話の島・淡路島へ 17時45分 「日本のホテル・旅館100選」にも選ばれる洲本温泉・「淡路インターナショナル サン・プラザ」に到着 着後、懇親夕食会までの間は入浴など自由行動 18時45分 2階「コンベンションホール」にて懇親夕食会 夕食後、解散 (洲本温泉：淡路インターナショナルホテル サン・プラザ泊)
②	11月24日 (月曜日)	7時00分 2階「コンベンションホール」にて朝食 集合写真撮影後、出発 8時00分 貸切バスにて神戸淡路鳴門自動車道を利用して鳴門へ 9時00分 地震で現れた国指定天然記念物・野鳥断層を参観。地震体験。 10時20分 陶板名画美術館「大塚国際美術館」に到着 着後、1000余点にも及ぶ名画の数々。臨場感ある立体展示、西洋美術史の系統展示、テーマ展示鑑賞。 12時40分 「鳴門グランドホテル」に到着 着後、3階「コンベンションホール」にて「鯛しゃぶしゃぶ御膳」で懇親昼食会 13時45分 神戸淡路鳴門自動車道・阪神高速道路・中国自動車道を利用して宝塚へ 15時55分 西宮名塩サービスエリアにてトイレ休憩 19時20分 JR名古屋駅西口広場に到着、到着後に解散

国内史跡探訪研修旅行を実施して

企画部長 横井 宏 軒

本年度の国内史跡探訪研修旅行は、当初八月十日(日)～十一日(月)の一泊二日の日程で実施予定でしたが、台風十一号の影響で延期となり、改めて十一月二十三日(日)～二十四日(月・祝)に変更、九十七名の参加者で神戸・淡路・鳴門の研修旅行を実施しました。

国内史跡探訪研修の目的は、知識の修得、情報の収集および会員相互の親睦、連携を図ることです。

今回の研修の最初の目的地は神戸市でしたが、秋の行楽シーズンで連休も重なり高速道路が渋滞、到着予定時刻に大幅に遅れてしまいました。

最初の研修先の「財団法人白鶴美術館」は、白鶴酒造が昭和六年設立した私立美術館の先駆けともいえる美術館。奈良・平安時代の経巻・書、飛鳥(鎌倉時代の仏教工芸品、鎌倉～江戸時代の絵巻物・屏風・軸物、また中国の商周時代の青銅器、唐・宋・明代の陶磁器、唐代の銀器など国宝・重要文化財も数多く含まれる世界有数のコレクションを鑑賞することができました。

「北淡震災記念公園」は、平成七年

一月十七日に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)の記念公園で、活断層である野島断層が動いたことにより起きた道路や畑の畦、生垣のずれなど断層による様々な地形の変化がそのまま残されており、地震のエネルギーの大きさと自然の脅威を伝えていました。

「大塚国際美術館」は、世界初の陶板名画美術館で、原寸大で千余点にも及ぶ西洋名画の数々が展示されています。古代遺跡や教会などの壁画がそのまま再現され、臨場感が味わえる立体展示で、古代・中世・ルネサンス・バロック・近代・現代までの西洋美術の変遷が理解できるようでした。

帰りの高速道路でも渋滞があり、予定していた鉄斎美術館での見学を中止、十分程遅れての名古屋駅西口への到着でした。

最後に、今回の研修旅行につきまして、参加者をはじめ多くの方々にご協力いただきご迷惑をお掛けしましたが無事終えることができましたこと、この場を借りてお礼とお詫びを申し上げます。

国内史跡探訪研修旅行参加者名簿

研修旅行役員

- 名誉副会長 樽本 樹邨
- 副会長 安藤 滴水
- 理事長 鬼頭 翔雲
- 副理事長 松永 清石
- 理事 関根 玉振
- 副理事長 伊藤 昌石
- 事務局長

一号車

- 号車長 荒川 恵風
- 樽本 樹邨
- △鬼頭 翔雲
- △関根 玉振
- 井口 方燕
- 石泉 松風
- 磯谷 凄聴
- 井谷 李春
- 伊藤 龍仙
- 大飼 梅川
- 岩田 緑汀
- 大橋 南風
- 梶山 盛涛
- △上小倉積山
- 國島 英華
- 黒川 虚宇
- △小島 瑞柳
- 後藤 春洋
- 近藤 蕙風
- 佐久美泉涯

二号車

- 号車長 伊藤 昌園
- ◎安藤 滴水
- ◎△伊藤 昌石
- ◎△青木 清涛
- ◎△天野 白雲
- 伊藤 昌郷
- 伊藤 艸亭
- 上田 賦草
- 内山 蘭月
- 大島 緑水
- 加藤 矢舟
- 略口 紅霞
- 佐藤 慶雲
- ◇下村 汀柳
- 白井 景星
- 関根 玉翠
- △世古口大虚
- 勅使河原恵翠
- 寺尾 桑林
- 遠山 柳恵
- 中川 瑞風
- 林 大樹
- 原賀 瑞芳
- 深田 芳香
- 福岡 林泉
- 山際 雲峰
- △横井 宏軒
- 若松 翠泉

三号車

- 号車長 毛利 恵風
- ◎△松永 清石
- 浅井 紅鶴
- 浅岡 明
- △石原 馨風
- 木俣 紫香
- 木全 春琴
- △後藤 啓太
- △後藤 汀鶯
- 近藤 梅鶯
- △佐野 翠峰
- 鈴木 石城
- 高田 香坡
- △武内 峰敏
- 中坂 緑風
- 長谷川華香
- △馬場 紀行
- ◇原 霞扇
- △廣澤 凌舟
- 福谷 旭涛
- 福山 恵山
- 藤井 紫虹
- 穂積 爽風
- 松下 英風
- 水野 菜月
- 村瀬 幽香
- 山中 桂山
- 吉田 翠竹

- ◎印は研修旅行役員
- ◇印は記録
- ◎印は名誉顧問・常任顧問・顧問・理事・監事
- △印は企画委員
- ◇印は協賛会員
- 伊藤 均
- 犬飼 游華
- 猪又 松峰
- 長田 正嗣
- 長田 裕華
- 勝海 芝香
- 加藤 翠林
- △工藤 俊朴
- 酒井 光華
- ◇佐々木宏明
- 鈴木 翠芳
- 戸崎しょう子
- 西富 峯子
- △丹羽 常見
- 則武 穹
- 原田 圭竹
- ◇本間 翠眉
- 水田 美泉
- △山内 江鶴
- 山路 静竹
- △山田 杏華 (九十七名)

1号車

下村 汀柳

1号車の旅日記

十一月二十三日、名古屋駅西口広場に
 一号車の団員は定刻どおり集合しまし
 た。今年は秋の旅となりその出立もその
 人その人の個性が光りました。中でも黒
 川虚宇さんはハリウッドスターと見紛う
 ばかりの装いで注目を浴びていました。

バスは樽本副会長、鬼頭理事長にご乗
 車頂き神戸に向って出発です。

アスタくにつか一番館三階の神戸飯店
 でおいしい中華の昼食を取り、その後第
 一の研修場所白鶴美術館に到着。和風造
 りの堅牢な建物に入ると、陳列ケースの
 中に中国、日本の古美術が自然光のもと
 展示してあり、窓の外に映る紅葉の錦が
 彩りを添えています。二階の天井は、丸
 に鶴の文様が施され、白鶴酒蔵の歴史と
 伝統を象徴しています。手入れの行届い
 た中庭は緑の木々が今は盛りと燃えるよ
 うな赤に染ったもみじをより際立たせ、
 素晴らしい秋の風景です。

今回の宿は淡路島洲本温泉。楽しい懇
 親夕食会に今年はじゃん拳大会、ビンゴ
 ゲームが加わり全員参加で盛り上ります。
 犬飼梅川さんがじゃん拳大会で見事優
 勝。カラオケもあり会の締めは樽本先生
 による「昂」。先生の歌声に合わせ全員
 での大合唱となりました。

翌二十四日は野島断層を見学しまし
 た。今回の再旅行直前にも全国各地で地
 震があったこともあって、震災の傷痕を

誰もが真剣な眼差で見つめていま
 した。

次に大塚国際美術館を訪れまし
 た。陶板による複製ですが、実物
 と同じサイズで環境空間もそのま
 ま再現され、臨場感を味わえる立
 体展示です。ここに来れば数多く
 の西洋の名画を贅沢に体感するこ
 とができるのです。

今回の旅は行きも帰りも渋滞続
 きでしたが、後部の男性陣は座席
 の一部をサロンバスのように仕立
 て、和やかに過ごしていました。
 今年は盛上げ男の田中隆豊さんの
 姿がなく、少し寂しい旅でしたが、
 荒川恵風さんが点呼の度に亡くな
 られた田中さんの名を呼ばれてい
 たので、心はご一緒されていたかもし
 れません。改めて田中さんのご冥福をお祈
 りした旅でもありました。



「昂」を歌われる樽本名誉副会長



じゃん拳ゲームで 皆 真剣



淡路インターナショナルホテル前
黒川さんの帽子をかぶる鬼頭理事長



1号車集合写真

2号車

原 霞扇

一号車の旅日記

二号車の団員三十二名は名誉副会長安藤滴水先生の挨拶を頂き研修旅行に出発。

これから和やかに談笑しながら神戸に向かうものと思っていると、まず低く平坦でゆったりとしたガイドの方の口調に驚く。話題も歴史上の人物や源氏物語の話、話題が変わってもあまりに淡々と話すので気がつかない。質問があつても間をあげず澁みなく話すので口を挟めない。諦めて静かにしていると睡魔に襲われる。サービスイリアでの休憩をはさみまたガイドさんの子守話(唄)が始まる。車内を見ると大半が寝ている。起きている人もガイドの話の邪魔にならないよう小声で話している。二号車の団員は皆優しい。

二十三日は三連休の真ん中。当然渋滞に遭遇、予定より一時間半遅れで最初の目的地の神戸飯店に到着、昼食をとる。さすがにここまで遅れると誰もが空腹の頂点、会話も程々に食べる、食べる、飲む。しかし時間がないので早々に次の目的地の白鶴美術館へ急ぐ。北淡震災記念公園は二日目に回すこととなり洲本温泉のホテルへ。

二日目は北淡震災記念公園へ行くために三十分早く出発、その次は大塚国際美術館。圧巻はシステイナ・ホール、ミケランジェロの天井画の複製だがこれは

陶板。しかもアーチ状の部分にも陶板名画が展示されているのには驚かされた。陶板名画を堪能後、美術館近くのホテルで昼食をとり帰路に着く。

また静寂な時間がはじまると思いきや一号車の鬼頭理事長が安藤名誉副会長と交代して二号車に。車内の沈んだ空気を気遣ってか、突然理事長のカラオケがはじまった。次に馬場紀行さんが歌舞伎の口上で盛り上げ、そのままカラオケの司会を務める。団長の伊藤昌園さんは、歌の順番を決めつつも団員皆が楽しめるよう気配りを忘れない。こうして二号車は前日とは一転活気ある車内に変わった。

今回は両日とも渋滞にあつたためバスの車中を満喫する旅となつた。



大塚美術館 内部



北淡震災記念公園 野島断層



2号車集合写真



本間 翠眉

三号車の旅日記

楽しみにしていた国内史跡探訪研修旅行、台風接近のため中止となっていたが、十一月二十三日(日)～二十四日(月・祝)に再度実施との連絡。良かった！ 行先は神戸・淡路島・鳴門。

二十三日晴天に恵まれ、JR名古屋駅西口広場に八時二〇分集合。参加者九十七名が貸切バス三台に分乗し、予定通り八時三〇分に出発。名古屋高速道路、東名阪自動車道、中国自動車道へと。道路は事故により渋滞さみであったが、すばらしい色とりどりの紅葉を眺める事が出来た。車内はなごやかな雰囲気、元氣なガイドさんの話によると、「元、宝塚歌劇団出身です」。(クスッ) 運転手さんは「元、ジャニーズ出身」(大笑い)。お茶、お菓子が配られ、号車長毛利恵風さんの挨拶があり和氣藹々。神戸市内の「神戸飯店」で昼食。そして「白鶴美術館」を参観。白鶴酒造七代嘉納治兵衛(鶴翁)は、酒造業に力を注ぎながら、古都の古美術に親しみ、人々の鑑賞と研究に役立ちたいと名品を蒐集。日本ではじめての私立美術館を設立、所蔵した。日本と中国の古美術が中心千四百点余の逸品国宝、重要文化財も多く、経巻、書、銀器、青銅器等々……。圧巻……。次は「北淡震災記念公園」しかし交通渋滞で予定より遅くなり翌日に変更。洲本温泉へ「日本のホテル旅館一〇〇選」に選ばれる「淡

路インターナショナルホテルサンプラザ」に宿泊。懇親夕食会後、カラオケ大会、ビンゴゲーム、ジャンケン大会等々大いに盛り上がり樽本名誉副会長はじめ幹部の先生方が「昂」を合唱。カラオケは三号車の山田杏華社中の仮装「高校三年生」が優勝しました。二十四日も快晴、七時に朝食をとり、ホテル前にて各号車ごとに集合写真。まず「北淡震災記念館」へ野島断層保存館参観、震災体験もしました。天災は忘れたころにやって来る……。バスは徳島県の陶板名画美術館「大塚国際美術館」を参観。原寸大で千点余の名画の数々、立体展示、系統展示、テーマ展示に拘った美術館。中でも「真珠の耳飾りの少女」の立体展示が印象的であった。昼食は「鯛のしゃぶしゃぶ御膳」。「鉄斎美術館」は時間の都合でとり止め。中国自動車道を通り無事帰路に。ハブニングもありましたが楽しく充実した二日間の研修旅行ありがとうございました。



今年もカラオケ大会で優勝した山田杏華社中の仮装



北淡震災記念館で震度7を体験



案内ガイドの説明は実に効果的 皆 真剣！



3号車集合写真

一宮支部創立六十周年記念を迎えて

一宮支部長 岩田 潤流

昭和二十九年五月、中部日本書道会初の支部として「一宮支部」が誕生し、今年度で六十周年、還暦の年を迎えることができました。そして、平成二十六年十一月二十二日(土)〜二十三日(日)には、一宮スポーツ文化センターに於いて第六十回一宮支部展を開催致しました。これは、敷道発展のために御尽力された先賢各位、先輩諸先生の偉業の積み重ねであり、全支部員の御協力のお蔭です。心より感謝申し上げますとともに、歴史の重さを痛感しています。

さて、一宮支部では創立六十周年を記念し、左記の行事を行いました。

一 創立六十周年記念特別展「次代を担う青少年に贈ることば」展を開催。

二 第六十回一宮支部展作品集作成。(巻頭に理事長鬼頭翔雲先生のお言葉を頂戴し、巻末には過去十年間の支部報を掲載)

三 記念品の作製。(関市の職人さんによるペーパーナイフ) そのうちの記念特別展について述べさせていただきます。この特別展は、書を通して「地域文化の発展向上と、次代を担う青少年の夢と希望に満ちた健全な育成」を願い開催致しました。

一宮市内の多くの小・中学校より「学校としての作品」を出品していただくことができました。それぞれの作品には、先生方の温かいお心とメッセージがこめられ、児童生徒・保護者の皆様は、大きな感動と力強い励まし、そして夢と希望を戴けたことと信じております。

四月中旬から一カ月余りかけ、支部執行部の先生方と市内の全小・中学校を訪問。愛知県立特別支援学校二校、聾学校一校、私立中学校一校を含む、六十五校の校長先生にお会いし、中部日本書道会と一宮支部の紹介、記念特別展「青少年に贈ることば」展の開催趣旨、本部八十周年記念行事の案内等をお話しし

ました。その結果、先生方の協力を得ることが出来、約九割の学校に出品していただくことができました。支部展会場に於いて、第四十三回支部学生書道展展示作品と織りませながら、五十音順に展覧させていただきました。作品を真剣に見入る方々のまなざしが、今も私の心に鮮明に浮かびます。

私は、先生方の思いや願いをこめられた書作を拝見し、しみじみと伝わるものを感じ、改めて心のこもった書の大切さと意義深さ、そしてことばの重要性を学ばせていただきました。

二日間という短い会期ではありましたが、貴重な出逢いを得、学ぶところは多く、また、約二五〇〇人の来観者をお迎えすることもできました。ありがたい限りです。

最後になりましたが、この度の記念行事実施にあたり、ご多忙の中、協力賜りました教育界の先生方、ご支援いただきました皆様、昼夜を問わず準備作業に従事された執行部の先生方には、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。ご



第60回一宮支部展会場風景



カレンダー書きイベント会場



60周年記念特別展「次代を担う青少年に贈ることば」展
第43回一宮支部学生書道展

第18回 公開講座開催

日時 平成26年11月30日(日) 場所 電気文化会館 5階イベントホール

公開講座を終えて

研究部長 廣澤凌舟

十一月三十日(日)、電気文化会館5階イベントホールに於いて「第十八回書の魅力公開講座」を開催いたしました。

理事長鬼頭翔雲先生の開会ご挨拶の後、墨運堂会長松井重憲先生による第一講座「墨の精神は膠である」が始まりました。

冬場が墨づくりの最盛期であることや、膠の成分の具体的なお話等、今後の書の作品制作に繋がる貴重なお話を聞く事が出来ました。

私は以前、墨運堂様の工場見学をさせていただいた事があります。機械化が進むこの時代の一つひとつ手作業で墨を作っている事に感激したのを憶えています。

第二講座は顧問木戸竹葉先生による『古文書』を楽しむ——三くだり半にみる女と男の縁切り——と題してのご講演をいただきました。

文学の持つ意思表示、文字が存在したからその面白さ、奥深さ等、スライドを使ってわかりやすくご説明いただきました。

最後になりましたが御多用中にもかかわらず熱心にご講演いただきました松井重憲先生、木戸竹葉先生に厚く御礼申し上げます。

(文責 長谷太郎)



第2講座 木戸竹葉先生



第1講座 墨運堂 松井重憲会長

会員交流 ボウリング大会を終えて

厚生部長 小島瑞柳

十二月七日(日)、星ヶ丘ボウルに於いて、平成二十六年の会員交流ボウリング大会が開催されました。

樽本樹郎名誉副会長、安藤滴水名誉副会長お二人の始球式で会員七十三名、会員外十一名の戦いが始まり、四時半より表彰式、懇談会に入り成績が発表されました。

男性一位、谷田義弘さん、二位大橋溪煙さん、三位高松秀翠さん、女性一位、内山蘭月さん、二位岡崎啓雪さん、三位古田春華さんです。又、副会長賞、理事長賞、副理事長賞、常任顧問賞が七人の先生のご芳志で設けられ、くじびきで男女十二名の発表があり、会場は一気に盛り上がりました。副会長賞、男性、佐藤克之さん、大橋溪煙さん、女性、岡田恵鶴さん、佐野信代さん、理事長賞、男性、堂前蒼雲さん、女性、鈴木弘恵さん、副理事長賞、男性、岩田潤流さん、太田朴仙さん、廣澤凌舟さん、女性、窪田蝶華さん、大江田碧峰さん、山内茜さん、常任顧問賞、男性、伊藤仙游さん、女性、萩溪華さんがそれぞれ受賞されました。おめでとうございます。来年も又、ここで皆様と元氣にお会いしたいと思います。



この会にご協力頂きました協賛会員様、ありがとうございました。

第26回 書道教育研修会

日時 平成26年12月23日 (火・祝)

場所 名古屋国際センター

書道教育研修会を終えて

教育部長 後藤 啓太

平成二十六年十二月二十三日(火・祝)、名古屋国際センター五階会議室に於いて四講座を開催しました。

講座に先立ち、副理事長兼事務局長の伊藤昌石先生に、万葉集から名古屋の古い地名の由来などにつながるお話がうかがえました。歴史について大変お詳しく、様々なことに新鮮な興味を持つことが大切であり、それらが作品制作にも生かされるのだと感じました。

漢字の梶山盛涛先生は、書体の変遷、さまざまな楷書のお話をして頂きました。又、趙之謙と西川寧先生の北魏の楷書・行書とのかかわり、「逆入平出」の筆法をまじえ、趙之謙の書に迫る揮毫を見せて下さいました。受講生の皆さんは、丁寧で熱心なご指導に吸い込まれていくようでした。

かなの塚田俊可先生は、かなと漢字の違いや「完全な模倣」と「倣書」の勉強の仕方や理念を丁寧に講義して下さいました。先生の揮毫を拝見した後、連綿や潤渇の美、遅速を意識して実技練習をしました。古典の本物を深く見ることの大切さを教えて頂きました。

少字数の水谷海越先生は、手島右卿先生の作品を年代順に觀賞しながら「線質の変化と作品感」の講義をして下さいました。受講生は淡墨を作るところから始め、「舞」の文字を揮毫。皆さん、文字の持つ意味を形に表す難しさと楽しさを実感できたようでした。

近代詩文書の後藤啓太は、楷書と平仮名・行書と平仮名の調和から、筆による変化を解説し、皆さんに揮毫練習をして頂きました。その後、川端康成の「雪国」「山の音」を題材に詩文の選び方も勉強しながら、作品を作って頂きました。

台風の影響により開催日変更にも関わらず、多くの受講生の方々に出席して頂きましたこと、心よりお礼申し上げます。又、講師の先生方にも、熱心なご指導を賜りましたこと、感謝申し上げます。



書道講話 伊藤昌石副理事長



Aコース午前の部 漢字 梶山盛涛先生



Bコース午前の部 かな 塚田俊可先生



Aコース午後の部 近代詩文 後藤啓太先生



Bコース午後の部 少字数 水谷海越先生

第23回 壽書 展 開 催

会期 平成26年11月26日(水)～11月30日(日) 場所 電気文化会館5階東・西ギャラリー

壽書展を終えて

第二事業部長 佐野翠峰

第二十三回壽書展を十一月二十六日(水)～三十日(日)までの五日間、名古屋市中区伏見の電気文化会館五階東・西ギャラリーに於いて開催致しました。

二十一回展より、本会所属の満七十歳以上の会員のみならず満七十歳以上の方ならびなたでも参加頂ける展覧会として開催してまいりました。会報、ホームページ等で広く出品者を募り、本年は十五名の会員外の方より出品がありました。

本会会員の内、満七十歳以上(平成二十六年四月二日現在)の会員の方は、千三百名を超えております。第二十三回展には、八十六歳以上の先生方二十八名をはじめ百六十九名の先生方にご出品を賜り、会員外の方よりの出品を加え百八十四点の玉作を展示致しました。

昨年より会期中に同会館イベントホールに於いて「公開講座」を開催した効果もあり、来場者数も増加傾向が見られました。

長年の学書と研鑽を感じさせる作品に来場者の方々は、すがすがしい気持ちと深い感動を感じておられました。

先生方が益々ご壮健でご活躍される姿を拝見できることは、誠に喜ばしい限りであります。

最後になりましたが、搬入・陳列から搬出に至るまで絶大なご尽力を頂いた協賛会員の方々、第二事業部の次長・委員、出品料整理等でご協力頂いた第二経理部の皆さんに心より感謝申し上げます。



平成二十七年度(予定)

第二十四回 壽書展

会期 平成二十七年

十一月十七日(火)～二十二日(日)

会場 電気文化会館 東・西ギャラリー

第十九回 書の魅力「公開講座」

会期 平成二十七年十一月二十二日(日)

会場 電気文化会館 イベントホール

第六十五回記念 中日書道展出品規程（抜粋）

一、会期・会場

▼名古屋市民ギャラリー栄

平成二十七年六月 九日(火)～六月 十四日(日)

▼愛知県芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー

平成二十七年六月 十七日(水)～六月二十一日(日)

▼名古屋博物館

平成二十七年六月 十六日(火)～六月二十一日(日)

▼二科展覧会

平成二十七年六月二十四日(水)～六月二十八日(日)

一、出品部門

第一部 漢字 第二部 かな 第三部 近代詩文

一、出品資格

十五歳以上（平成十二年四月一日生以前）の者とする。（但し十五歳から二十一歳までの者〔平成五年四月二日生から平成十二年四月一日生まで〕は証明書〔免許証、学生証、保険証等のコピー〕を提出する。）

一、出品点数

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

一、出品寸法

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

一、出品料

各資格の出品規程に記載の出品料とする。

一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、資格喪失

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。（止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること）

一、審査日程

・二科作品 平成二十七年五月 九日(土) 午前九時十分～
・一科作品 平成二十七年五月 十日(日) 午前九時十分～
・特別賞選考 平成二十七年五月十一日(月) 午前九時十分～

一、審査員

・特別賞選考委員は、二科審・依囑・無鑑査作品の審査にあたる。
・一科審査員は、一科作品の審査にあたる。
・二科審査員は、二科作品の審査にあたる。

一、褒賞

優秀作品に左記の賞を贈る。（二科佳作、一科秀逸の点数は第五十八回展から適用する）
・二科作品 —— 二科賞（二点）・奨励賞（一点）・佳作（〇・五点）
・一科作品 —— 推薦（二点）・特選（二点）・準特選（一点）・秀逸（〇・五点）
・無鑑査作品 —— 中日賞・桜花賞
・依囑作品 —— 海部俊樹賞・大賞・準大賞
・二科審作品 —— 第六十五回記念賞

一、昇格規定

各資格において次の基準を満たすとき昇格する。

・一科 昇格 —— 二科において総点三点に達した者
・無鑑査昇格 —— 一科において総点五点に達した者
・依囑 昇格 —— 無鑑査において中日賞、桜花賞を受賞した者
・二科審査員昇格 —— 依囑において海部俊樹賞、大賞、準大賞を受賞した者
・一科審査員昇格 —— 二科審査員において第六十五回記念賞を受賞した者

一、授賞式

平成二十七年六月二十一日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後三時半より(予定)

一、祝賀会

平成二十七年六月二十一日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後六時より
〔参加は十八歳以上に限る。〕

一、入場料

三〇〇円(小・中・高校生は無料)、資格証により入場できる。

一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱い店がいたしますので、出品者は事前に取扱い店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。
締切りは四月十三日(月) までとさせていただきます。

中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱い店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意ください。

※正会員(展覧会役員及び一科会員)の年会費も、取扱い店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他の注意事項

出品票には、住所、姓号、生年月日等が印字してありますので変更や誤りがありましたら赤字で訂正して下さい。
紛失した場合は、公益社団法人 中部日本書道会本部へご請求下さい。

搬入・搬出については、取扱い店に連絡を取ってください。所定の搬出時間を過ぎても搬出されない場合は、作品保管の責任は負いません。

※出品票は、本会会員の方及び会員外で昨年度ご出品の方は、本部から送付したものをご使用下さい。会員以外の方で新規出品の方は、事前に指導者もしくは取扱店を通じて本部へご申請下さい。本部からご本人に出品票をお送りします。(申請最終締切三月三十一日)

※新規出品の十五歳から二十一歳(平成五年四月二日生から平成十二年四月一日生まで)の方は、証明書〔免許証、学生証、保険証等のコピー〕を添付して下さい。

出品料・協賛費は理由の如何を問わず返却いたしません。

※本年度不出品者(正会員)の年会費は、後日郵送する振込用紙で納入していただきます。

※授賞式・祝賀会の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

第六十五回記念中日書道展作品展示会場

愛知県美術館ギャラリー 8F

六月十七日(水)～六月二十一日(日)

審査顧問	一科審査会員	一部・二部・三部	一部・二部・三部・四部・五部
特別出品	二科審査会員	四部・五部	第六十五回記念賞 海部俊樹賞・大賞・準大賞 中日賞・桜花賞を含む
依嘱	無鑑査	一部・五部	
無鑑査	無鑑査	一部・五部	
名古屋市民ギャラリー栄	六月 九日(火)～六月十四日(日)	二部・四部(中日賞・桜花賞は県美に展示)	
名古屋博物館	一部・五部 作品 六月 十六日(火)～六月二十一日(日)		
二科	一部・五部 作品 六月 二十四日(水)～六月二十八日(日)		

一科作品を六月 十六日～二十一日まで陳列し、掛替えは行わない。
 二科作品を六月二十四日～二十八日まで陳列し、掛替えは行わない。
 ＊期日に遅れた作品、書類搬入のない作品は受け付けない。

審査顧問から無鑑査までの出品について

一、作品寸法

展覧会役員作品

資格	種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	協賛費	年会費等
審査顧問	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
特別出品	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	一一、〇〇〇円
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	一一、〇〇〇円
一科審査会員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	一一、〇〇〇円
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	一一、〇〇〇円
二科審査会員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	(※顧問を除く)
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	(※顧問を除く)
依嘱	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
無鑑査	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	

・審査顧問から無鑑査の作品寸法は右記の通りとする。
 ・二科審査：依嘱・無鑑査の作品は「裏打ち」作品で搬入すること。(第一部・第二部・第三部・第四部とも共通)

・一審・二審・依嘱・無鑑査の作品で、帖・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三三五m×横四m以内。但し、帖は見開き横〇・七m以内。

・篆刻は二印以内で印影のみとし枠張りアクリル入り共に可とする。仕上がり寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。

・刻字は一m平方以内とする。
 ・無鑑査の作品はアクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し、五部は除く)

・依嘱以上の作品はアクリル入りとする。(第一部～第五部)
 ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) サイズについては半折額を認めない。

一科出品について

一、作品寸法

一科作品(二科会員に限る)

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料	年会費
A	一・七六m(五・八尺)×〇・八五m(二・八尺) 枠(縦横自由)	九、〇〇〇円	七、〇〇〇円
B	一・八二m(六 尺)×〇・七九m(二・六尺) 枠(縦横自由)		
C	一・八二m(六 尺)×〇・六m(二 尺) 枠(縦横自由)		
D	一・〇六m(三・五尺)×一・三六m(四・五尺) 枠(縦横自由)		
E	二・四二m(八 尺)×〇・六m(二 尺) 枠(縦横自由)		
F	一・二一m(四 尺)×一・二一m(四 尺) 枠(縦横自由)		
G	〇・七五m(二・四尺)×一・五二m(五 尺) 枠(縦横自由)		
H	〇・九一m(三 尺)×一・二一m(四 尺) 枠(縦横自由)		
I	二・二二m(七 尺)×〇・七〇m(二・三尺) 枠(縦横自由)		
帖・卷子	(寸法は〇・三五m×四m・帖見開き〇・七m以内)		

・十五歳から二十一歳(平成五年四月二日生から平成十二年四月一日生まで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子は別に定める)

・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。
 ・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)
 ・帖は見開き横〇・七m以内。
 ・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横四m以内。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとし枠張り・アクリル入り共に可とする。(但し、審査終了後となります。)

・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。
 ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)

二科出品について

一、作品寸法

二科作品(準会員二科公募)

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料
A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 枠(縦横自由)	七、〇〇〇円
B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 枠(縦横自由)	
帖・卷子	(寸法は〇・三五m×四m・帖見開き〇・七m以内)	

・十五歳から二十一歳(平成五年四月二日生から平成十二年四月一日生まで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子は別に定める)

・作品寸法は右記の通りとする。
 ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。
 ・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)
 ・帖は見開き横〇・七m以内。
 ・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横四m以内。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとし枠張り・アクリル入り共に可とする。(但し、審査終了後となります。)

・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。
 ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) サイズについては半折額を認めない。
 ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)

・重量は四キログラムを超えないこと。

第六十五回記念 中日書道展出品について(取扱い店の皆様へ)

●書類搬入

- ・所定の出品票を四月十七日(金)に中部日本書道会本部へ書類搬入してください。(一科会員・展覧会役員の方については、出品料と共に年会費および協賛費を振込して下さい。)
- ・新規出品の十五歳から二十一歳(平成五年四月二日生から平成十二年四月一日生まで)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。
- ・新規出品者は事前に本部に申請していただき、本部より出品票を本人宛お送りします。
- ・書類搬入がされていない作品は受付けません。

●作品の搬入・搬出について

- ・個人による搬入・搬出は受付いたしません。作品取扱い店に委託してください。
- ・二科審・依嘱・無鑑査・一科・二科の裏打ち作品―五月八日(金)午前九時半―午前十一時 愛知県産業労働センター八階展示場に搬入。

●展覧会の搬入・搬出について

名古屋市民ギャラリー栄	搬入・陳列―六月 八日(月) 午後一時	午後五時
愛知県美術館ギャラリー	搬入・陳列―六月 十六日(火) 午後一時	午後六時
名古屋博物館ギャラリー	搬入・陳列―六月 十五日(月) 午後二時	午後五時
	一科搬出―二科搬入―六月二十三日(火) 午前九時半	正午
	二科 作 品 陳列―六月二十三日(火) 午後二時	午後五時
	二科 作 品 搬出―六月二十八日(日) 午後三時	午後五時

●作品寸法(仕上り寸法)について

- ・二科・一科・展覧会役員の作品は定められた「仕上り寸法」とし、それ以外は受け付けません。
- ・審査顧問、一科審査員、二科審査員、依嘱はアクリル入り、無鑑査はアクリルなしの枠張りいたします。

〔作品取扱店〕

浅井 梧竹堂	〒西三〇八三 名古屋西区あし原町六八一	電(〇五二)五〇四―二七〇三
石黒 五雲堂	〒西三〇八四 名古屋市中村区豊国通四一四六	電(〇五二)四一―二七八六二
伊藤 大林堂	〒西三〇八四 名古屋市名東区香南一―五〇七(長谷川コーポ)	電(〇五二)七七一―一八八一
永 楽 堂	〒西三〇八五 西尾市永楽町四一〇	電(〇五六)三五四―二〇五三
(株) 應 天 堂	〒五〇一二五 岐阜市下鶴飼一四六八	電(〇五八)二三九―一五二〇〇
(有) 岡本頌文堂	〒五〇〇八二 四日市市北町三一四	電(〇五九)三五二―一六〇一〇
魁 盛 堂 (株)	〒西三〇八三 名古屋西区押切二―二二一三	電(〇五二)五二一―一三二一一
加藤 長寿堂	〒西三〇八〇 名古屋市中村区太閤一―一六一三三	電(〇五二)四五二―一四七五一
(株) 川口春霞堂	〒西七〇〇三 あま市七宝町下田四反割二	電(〇五二)四四四―八〇二四
(有) 伽 藍	〒西三〇八二 名古屋市中区大須三一八一〇	電(〇五二)二四二―一七七四一
(有) 菊屋商店	〒西三〇八七 名古屋市中区新栄二―一四六	電(〇五二)二四一―一四四五
(有) 吸 月 堂	〒西三〇八四 名古屋市北区清水二―二二二	電(〇五二)九三一―一六九四八
金陽堂表具店	〒西三〇八五 豊田市久保町三一―二七一	電(〇五六)五三二―一〇八六三
小松 表具店	〒西三〇八三 小牧市東二―一五四四	電(〇五六)八七五―一〇二八一
(株) 柴田紙店	〒西三〇八六 一宮市本町三一―九一八	電(〇五八)六七二―二〇〇一
(有) 新 泉 堂	〒西三〇八六 名古屋市北区若鶴町三四四一	電(〇五二)九〇一―一〇五一四
(株) 青 雲 堂	〒西三〇八八 安城市今本町三一―一五	電(〇五六)六九八―一三三三
(株) 青 柳 堂	〒西三〇八八 名古屋市中区栄四―一八(中区役所ビルF)	電(〇五二)二五九―一〇三二三
創 源 工 房	〒西三〇八四 名古屋市緑区若田三一―一〇六	電(〇五二)六二九―一五〇三五
(有) 莊 文 堂	〒西三〇八七 知多市新知宝泉坊三〇―一	電(〇五六)二五五―一〇五一七
(株) 大 玄 堂	〒五〇八二五 岐阜市須賀一―八二五	電(〇五八)二七一―二六六二
(株) 大 林 堂	〒西三〇八八 名古屋市中区栄三一―二七一五	電(〇五二)二六一―一四八四六
名古屋キヨ和	〒西三〇八八 名古屋市中区栄四―二一〇(小浅ビル2F)	電(〇五二)二六三―一九四〇一
(株) 名古屋ホウドウ	〒西三〇八八 名古屋市北区東水切町二―二八一八	電(〇五二)九一五―一七九八
西川堂森表具店	〒西三〇八六 一宮市本町四―二二二一	電(〇五八)六七二―一三六二九
平野筆墨堂(株)	〒西三〇八三 名古屋市守山区大森一―二七〇一	電(〇五二)七九八―一六六五一
松屋紙店	〒西三〇八六 半田市清水北町六三	電(〇五六)九二一―二五七二

第六十五回記念 中日書道展 日程表

四月十三日	月	書類 (取扱店へ)	
十七日	金	書類搬入 (業者) 本部へ 中部日本書道会本部	受付 午前十時～十一時半 作業 午後三時まで
愛知県産業労働センター			
五月 八日	金	二科審・依嘱・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入	午前九時～午後五時
九日	土	二科・鑑査	午前九時～午後五時
十日	日	一科・鑑査 一部・二部・三部・四部・五部	
十一日	月	特別賞選考 (二科審・依嘱・無鑑査) 裏打ち作品搬出	午前九時～午後三時 午後四時～午後六時
名古屋市民ギャラリー栄			
六月 八日	月	依嘱・無鑑査 (二部～四部) (中日賞・桜花賞は愛知県美術館ギャラリーに展示)	搬入陳列 午後一時～午後五時
九日	火	展覧会役員作品展示	第一日 午前九時半～午後六時
十日	水	〃	第二日 午前九時半～午後六時
十一日	木	〃	第三日 午前九時半～午後六時
十二日	金	〃	第四日 午前九時半～午後六時
十三日	土	〃	第五日 午前九時半～午後六時
十四日	日	〃	第六日 搬出 午後四時～午後六時
愛知県美術館ギャラリー			
六月 十六日	火	審査顧問・特別出品・一科審査会員・二科審査会員・依嘱 (一部～五部)・無鑑査 (一部・五部) (一部～五部・第六十五回記念賞・海部俊樹賞・大賞・準大賞・中日賞・桜花賞を含む)	搬入陳列 午後一時～午後六時
十七日	水	展覧会役員作品展示	第一日 午前十時～午後六時

十八日	木	〃	第二日 午前十時～午後六時
十九日	金	〃	第三日 午前十時～午後八時
二十日	土	〃	第四日 午前十時～午後六時
二十一日	日	〃	第五日 搬出 午後四時～午後六時

六月 十五日	月	一科搬入・陳列	搬入陳列 午後二時～午後五時
十六日	火	一科展覧会	第一日 午前九時半～午後五時
十七日	水	〃	第二日 午前九時半～午後五時
十八日	木	〃	第三日 午前九時半～午後五時
十九日	金	〃	第四日 午前九時半～午後五時
二十日	土	〃	第五日 午前九時半～午後五時
二十一日	日	〃	第六日 午前九時半～午後五時
二十二日	月	休館日	
二十三日	火	一科搬出・二科搬入	一科搬出 午前九時半～正午 二科搬入
二十四日	水	二科展覧会	二科陳列 午後二時～午後五時
第二日	木	〃	第二日 午前九時半～午後五時
第三日	金	〃	第三日 午前九時半～午後五時
第四日	土	〃	第四日 午前九時半～午後五時
第五日	日	〃	第五日 搬出 午後三時～午後五時

※授賞式・祝賀会 六月二十一日(日) ウェスティンナゴヤキャスル(予定)

